

# 月刊 オブシディアン通信



No.050

オブシディアンとは英語で黒耀石という意味。黒耀石の代表的な原産地は、我が町の和田峠・星糞峠をはじめとした霧ヶ峰・八ヶ岳一帯に密集しています。



## セットフォード ぶらり旅 ①

今月号からセットフォードぶらり旅と題して、現在、長和町が国際交流を計画しているイギリスの歴史やセットフォードについて紹介していきたいと思います。セットフォードの主な名所・旧跡については、広報2月号で絵地図を掲載しました。シリーズでは、絵地図の番号順に紹介します。第一回目は、①のギルドホールです。

セットフォード市街地の中心部の東に位置する、ひととき大きな建物がギルドホールです。ギルドとは中世に商人や手工業者によって組織された職業別の組合です。

イギリスでは、4世紀の後半に西ローマ帝国が内紛やゲルマン民族の大移動などの影響を受けて滅亡し、地域や部族ごとに多くの小国家が登場しました。それぞれの国では、外敵に備えて国王と貴族などの有

力な領主、そして家臣が身分ごとに主従関係の契約を結び、主君は忠誠と軍役の代償として臣下に土地を与えました。この土地を荘園とい

い、土地の所有者は、さらに、その土地に住む民や農民を支配するという封建制が確立していきます。

ヨーロッパ全土からアフリカにまで及んだ、民族大移動の波は9世紀ごろになって収まり、次第に生活が安定していききました。自給自足を原則としていた荘園では、領主に納める作物を除いた余剰生産物を交換するようになり、交換を生業とする商人が生まれました。各地で定期市が頻繁に開催され、こうした場所は都市として発展していきます。そして、都市の成立や発展に貢献した大商人たちは、自治権や市場の管理、貨幣づくりや交易の権利など、様々な特権を領主から認められるようになり、商人ギルドが市政運営を独占するようになります。

手工業者によるギルドは、このよ

うな商人ギルドの市政運営独占に反発して登場しました。手工業に携わる人々の中にも、徒弟制度という厳しい身分制度があり、ギルドに参加できるのは親方だけでした。手工業ギルドは、製品の品質・規格・価格を厳しく統制し、また販売や営業、雇用、職業教育に関しても独占的な権利を持つようになります。

ギルドによる統制は、各地域の領主が王朝の強い力に支配される近世になっても続きました。しかし、市民階級が成長すると、自由な経済活動を妨げるものとして批判が高まり、消滅したといわれています。

このようなギルドの事務所が置かれていたのがギルドホールです。セットフォードに現存するギルドホールは一九〇二年に建立された、百年以上の歴史を持つ建物です。その壁に掲げられた銘板によると、この場所に最初にギルドホールが建てられたのは二三三七年まで遡ります。その後、何度かの建て替えを経て現在に至りますが、所々に過去の建物の面影が残されています。例

えば、写真の屋根の一番右側に取り付けられた像は、一六九〇年の建物に取り付けられた正義の像を移築したものだそうです。この建物はギルドが消滅した後、何世紀にもわたって役所として機能し、二十世紀後半は裁判所として使われていました。現在ではいくつかの部屋は一般市民が利用できるようになっており、パーティ会場などに利用されています。

文責 村田弘之



セットフォードに現存するギルドホール



# 月刊 オブシディアン通信



No.051

オブシディアンとは英語で黒耀石という意味。黒耀石の代表的な原産地は、我が町の和田峠・星糞峠をはじめとした霧ヶ峰・八ヶ岳一帯に密集しています。



## セットフォード ぶらり旅 ②

今月号ではセットフォードに原産地があるフリントという石について紹介したいと思います。左の写真は19世紀にフリントで造られた小さな家です。現在では宿泊用のコテージとして使われています。セットフォードのあるノーフォーク州には、このように壁面がフリントで装飾された建造物が数多くあります。



19世紀にフリントを使って建てられた家

現在、フリントの多くは建築材として利用されていますが、過去には動物の狩りに使う石槍や肉などを切るナイフ、鉄砲の火打石などにも使われていました。長和町の黒耀石は、3万年よりも古くから人々の生活を支える道具の素材として使われていましたが、このフリントも重要な資源として同じような歴史を持つています。ではフリントとはどんな石なのでしょう。ここでは、まず、地球上に存在する岩石の種類と共にフリントの特徴を紹介しましょう。

岩石はそのでき方によって、堆積岩・火成岩・変成岩に分けられます。堆積岩とは、その名が示すように、水中や大気中にたまった鉱物の破片や火山が噴火した時に出てくる灰、サンゴの死がいなど様々なものが固まってできた岩石です。主体となる堆積物の大きさや種類などによって名称が異なり、砂が固まったものは砂岩、火山灰が固まると凝灰岩、サンゴの死がいなどが固まったものは石灰岩と呼ばれています。

火成岩はマグマが固まってできる岩石です。急激に冷えて固まってできる火山岩と、地下の深いところでゆっくりと冷えて固まった深成岩に分けられ、さらに、シリカというガラスの基となる元素の含有量によって酸性岩・中性岩・苦鉄質岩の三つに分けられています。火山岩の酸性岩・中性岩・苦鉄質岩が、それぞれ流紋岩・安山岩・玄武岩にあたり、深成岩も同じくシリカの多い順に、花崗岩・閃緑岩・斑れい岩と呼ばれています。ちなみに、黒耀石は流紋岩の一種で、シリカの含有量が80%を超え、ガラスのようにキラキラ光る石を指します。

変成岩は堆積岩や火成岩が出来た後に、熱や圧力が加わって性質が変化した岩石のことをいいます。代表的な岩石としては、片麻岩や角閃岩があります。

さてフリントの話に戻しましょう。フリントは堆積岩の中のチャートの一種です。チャートはシリカを持つ放射虫や海綿動物などの動物の殻や骨のかけらが海底にたまってできた



フリントの原石（白い部分がチョーク）

岩石です。そしてチャートの中でも、恐竜が生きていた時代として有名な「白亜紀」という名前の由来となった、白色の石灰岩層の中に含まれる黒い塊のチャートだけがフリントと呼ばれています。チョーク層とも呼ばれる真っ白な地層に含まれる黒いフリント。イギリス東部では、ドーヴァー海峡に面する海岸部でその美しいコントラストを臨む景勝地があり、「ドーヴァーの白い崖」として映画の題名にも登場します。

今回はフリントの歴史について紹介します。 文責 村田弘之



# 月刊 オブシディアン通信



No.053

オブシディアンとは英語で黒耀石という意味。黒耀石の代表的な原産地は、我が町の和田峠・星糞峠をはじめとした霧ヶ峰・八ヶ岳一帯に密集しています。



## セツトフォード ぶらり旅 ③

先々の5月号ではイギリスのフリントという石そのものについて紹介しました。今月号では人間がフリントをどのように利用してきたか、その歴史について紹介したいと思います。人類が最初にフリントを使った痕跡はアフリカで見つかりました。1970年代に人類学者のリーキー夫妻がアフリカ、オールドヴァイ渓谷の



アフリカ、タンザニアのオールドヴァイ渓谷

約180〜160万年前の地層から人類の化石とともにフリントや黒耀石、石英で作られた石器を発見しました。フリントはその後も長らく石器の材料として用いられますが、紀元前約3500年から道具の材料としてのフリント利用は減少していきます。これは鋳業や冶金術が発達し、青銅や鉄を用いた道具に取って代わられるためです。青銅や鉄には、石と比べ、非常に優れた点があります。例えば、石器は一度折れてしまうと同じ用途にはなかなか使うことができません。それでも石器時代の人々は折れてしまった石器を別の石器に作り直して使っていました。やはり元の石器の大きさにはできません。それに対して青銅や鉄は折れてしまっても、高温で溶かして鋳直すことで元の形に作り直すことができます。こうした理由から道具の材料は徐々に石から青銅や鉄へと移り変わっていったのです。道具の材料として使われなくなったフリントは建築物の材料、特に壁材の一部として使われるようになります。セツトフォードから東に約50キロ

メートル離れた所にバーフキャッスルという城塞があり、その壁にはフリントが埋め込まれています。この城塞は3世紀頃に築城されたもので、建築材としてフリントを用いている最古の例です。日本では建築材といえば木材が多いですが、イギリスなどのヨーロッパでは石やレンガが主流です。そのため土の中に埋まってしまった建物は、日本に比べて、ヨーロッパの方が残りが良くなっています。こうした古い建物の壁の多くにフリントが使われており、イギリスでは至る所で見ることが出来ます。

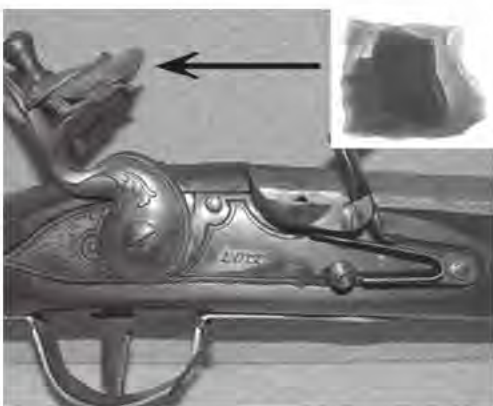


セツトフォードにある中世の修道院跡の壁にもフリントが使われている。

フリントは17世紀になると火打石として使われました。鉄などの金属と強い力で接触すると火花が生じる性質を利用しました。その中でも特に銃や鉄砲の火打石として加工されたものはガンフリントと呼ばれています。しかし火花を使うため、湿気による不発が多く、銃が濡れると発射できなくなるということが短所でした。

このようにフリントは180万年以上も前から人類によって利用されてきた、ヨーロッパなどの人々の生活に欠くことのできない岩石なのです。

(文責 村田弘之)



ガンフリント (右上) とその装着方法



# 月刊 オブシディアン通信



No.055

オブシディアンとは英語で黒耀石という意味。黒耀石の代表的な原産地は、我が町の和田峠・星黄峠をはじめとした霧ヶ峰・八ヶ岳一帯に密集しています。



## セットフォード

### ぶらり旅 ④

今月号のオブシディアン通信では再びイギリス・セットフォードを紹介していきます。今回は町の東にある太古の要塞から、イギリスの中世以前の歴史を見ていきましょう。

セットフォードの中心街から南東に400m離れた場所にキャッスルヒルと呼ばれる、大きな塚とそれを囲うような二本の土手があります。



キャッスルヒル近景

塚は直径約100m、高さ約20mで、土手は長さ200m、幅約20m、高さ約10mあります。この土塁は、5世紀以降にこの地に入植したアングロ・サクソン人のアイシーナイという部族によって、イクニールドウェイと呼ばれる古道の関所として建てられたとされています。イクニールドウェイとは日本でいう江戸時代の中山道のように整備された街道の一つです。中世のイングランドでは、こうした街道が四つ存在していたと考えられています。四月号で触れたように、ヨーロッパでは西ローマ帝国が滅亡し、社会情勢が不安定になります。封建制や荘園制が発展すると、余剰生産物が生まれ、商業が発達します。商業の発展により都市が形成されましたが、イングランドではセットフォードのある東部や南東部に大きな都市が集中して形成されました。こうした都市間を結び、人々の移動や物資の流通のために整備された街道の一つがイクニールドウェイなのです。

このように商業が発展する一方

で、イングランドは常に外敵からの脅威にさらされてきました。まず、9世紀にデン人（デンマークに居住していたノルマン人の一派）によってイングランドは侵攻されます。この時にはアルフレッド大王が撃退しますが、飛ぶ鳥を落とす勢いのノルマン人に再び侵攻されてしまいます。11世紀には、フランスの北方に建国されたノルマンディー公国によって征服され、ノルマン朝が成立しまし



イングランドの古道

た。セットフォードに居住したノルマン人は町全域が見渡せる塚の上に高さ約115mの木製の城を建立しました。これは自分たちの力を誇示する象徴のためと考えられています。しかし1173年にヘンリ2世によってこの城は取り壊されてしまいました。こうして現在では土塁のみが残され、遺跡公園として整備され、住民に方々に利用されています。

文責：村田弘之



# 月刊 オブシディアン通信



No.056

オブシディアンとは英語で黒耀石という意味。黒耀石の代表的な原産地は、我が町の和田峠・星黄峠をはじめとした霧ヶ峰・八ヶ岳一帯に密集しています。



セツトフォード

ぶらり旅 ⑤

12月に入り、色々な所でクリスマスモードが感じられるようになってきました。クリスマスといえ、イエス・キリストの誕生を祝うキリスト教のお祭りです。ということ、今月号はイギリスの宗教について紹介します。

左の写真はセツトフォードの中心地に立地するセントピーターズ



セントピーターズ教会堂

総人口 (人)	53,012,456	100.00%
キリスト教	31,479,876	59.38%
イスラム教	2,660,116	5.02%
ヒンドゥー教	806,199	1.52%
ユダヤ教	261,282	0.49%
仏教	238,626	0.45%
シク教	420,196	0.79%
その他	227,825	0.43%
未定	3,804,104	7.18%
無宗教	13,114,232	24.74%

イングランドにおける宗教の構成比

教会堂です。この教会堂は13世紀に建てられ、現在の建物は17〜18世紀にかけて改築されたものです。このようにイギリスにおいても他の多くのヨーロッパ諸国と同様にキリスト教徒が多くを占めています。

2011年にイギリス政府によって行われた国勢調査によると、セツトフォードの属するイングラの人口は約5300万人で、キリスト教徒が約60%、イスラム教が約5%、ヒンドゥー教が約1.5%とい

う構成比になっており、無宗教の人口とは約25%を占めています。最多派はキリスト教ですが、一口にキリスト教といっても様々な教派があります。イングランドで最も多いのはイングランド国教会です。イングランド国教会は16世紀に確立した比較的新しい教派です。

イングランドにキリスト教が伝わったのは3世紀頃とされていますが、キリスト教の歴史の中では教皇グレゴリウス1世の命を受けた、初代カンタベリー大司教アウグスティヌスによって6世紀末に布教が行われたとされています。その後、王と教皇との間に権力を巡る対立はありましたが、イングランドの教会は体制としてはローマと一致していました。

しかし16世紀に入るとキリスト教世界の教会体制上の改革運動「宗教改革」が起こります。宗教改革はルネサンスとともにヨーロッパ社会を変革させた出来事として皆さんも耳にしたことはあると思います。イングランドではヘンリー8世

が王妃との婚姻の無効を許可するようローマ教皇に求めましたが教皇クレメンス7世がこれを却下したことに端を発します。業を煮やしたヘンリー8世はイングランド内の聖職者を王に従わせ、教会裁判の権限をヨークとカンタベリーの大司教に持たせ、王妃との婚姻無効をカンタベリー大司教に認めさせました。これによってローマ教会を破門されたヘンリー8世は、イングランド国教会を樹立しました。そしてエリザベス1世によってイギリス国教会が国教として定められたことにより、イングランド国教会の優位性が確立しました。

上の表からもわかるように、現在のイギリスには多くの宗教が併存しています。先月号までに紹介してきたように、歴史的に民族の出入りが多い国であったこともあり、第二次世界大戦後に非熟练労働者不足を解消するため、積極的に移民を受け入れる政策をとったことが大きな要因となっています。

文責：村田弘之



# 月刊 オブジディアン通信



No.057

オブジディアンとは英語で黒耀石という意味。黒耀石の代表的な原産地は、我が町の和田峠・星箕峠をはじめとした霧ヶ峰・八ヶ岳一帯に密集しています。



## セツトフォード

### ぶらり旅 ⑥

新年あけましておめでとうございます。2015年最初のオブジディアン通信は、昨年の7月に学術交流協定を結んだセツトフォード町の博物館「エインシエントハウスミュージアム」について紹介します。役場がある町の中心部から西に3分ほど歩くと、白と黒を基調とし



エイシエントハウスミュージアム



19世紀のセツトフォード一般家庭の台所

たかわいらしい建物が見えてきます。15世紀のチューダー朝時代に建てられた比較的裕福な商人の家で、1924年に博物館として改築されました。外観は、壁と木造の部分が多々となっており、オーク材（ドングリが採れるナラという木の一種、ウイスキーやワインの樽の原料）の枠組の間を、漆喰やレンガ、石などを埋めた壁で造られているのが特徴です。チューダー様式もしくはハーフティンバー様式と呼ばれ、15

世紀から17世紀にかけて北ヨーロッパ、特にイギリスの住宅に多用された建築様式ですが、現在の日本でも一般住宅にこの様式を選ぶ人がいます。

エインシエントハウスミュージアムの展示室では、セツトフォードの生活の様子を見ることが出来ます。左上の写真は19世紀の一般家庭の台所で、テーブルの上にパン生地などを作っている料理の様子が再現されています。ヨーロッパでは各家庭でパンを焼くことが当たり前のようにならぬが、これは19世紀までの話です。

18世紀末から19世紀にかけてイギリスでは産業革命が起きました。これによって、それまでの農業中心から工業中心へと産業が変化し、都市部の生活は大きな変化を遂げます。セツトフォードのあるノーフォーク州を中心に起こった農業革命が、この産業革命のきっかけの一つとなったと言われています。

イギリスを含む西ヨーロッパでは農地を冬穀・夏穀・休耕地（放牧

地）に区分しローテーションを組んで耕作する三圃式農業が行われていました。しかし、ノーフォーク州では、多くの農民が共有していた広大な土地を資本家が独占し、麦・クローバー・小麦・カブの順に4年周期で行うノーフォーク農法と呼ばれる四輪作法が導入され、休耕地を持たない大規模な農業経営が行われるようになります。産業革命の基盤となった都市部の労働者人口は、この農業革命で農地を失った農民によって増加したとされています。

共有地で薪が拾えなくなったことや、それまで家事を担っていた女性が労働に従事するようになった結果、展示のように各家庭でパンを焼く習慣は次第に消え、パン屋からパンを買うライフスタイルに変化していったのです。

エインシエントハウスミュージアムでは、国際交流を記念して、長和町の歴史を紹介する企画展も計画されています。詳細につきましては随時報告していきたく思います。

文責：村田弘之



# 月刊 オブシディアン通信



No.058

オブシディアンとは英語で黒耀石という意味。黒耀石の代表的な原産地は、我が町の和田峠・星葉峠をはじめとした霧ヶ峰・八ヶ岳一帯に密集しています。

## セツトフォード ぶらり旅 ⑦

### イギリスの教育制度

教育委員会では平成24年度より、子ども達の国際交流に向けて様々な取り組みを行い、このオブシディアン通信でも紹介してきました。現段階で学校間の交流先として候補に挙がっているのはセツトフォードグラマースクールですが、この学校が一体どのような学校なのか、イギリスの教育制度と併せて紹介したいと思います。

現在の日本では6・3・3制を採用しています。これは小学校が6年、中学校が3年、高等学校が3年という学制を示していますが、この中の小学校から中学校にかけての9年間が義務教育とされ教育基本法、学校教育法では6〜15歳までの9年間は就学させる義務があると定められています。これに対してイギリスでは、教育義務は定められていますが、就学義務は定められていません。また義務教

育の年限も5〜16歳までの11年間と長く設定されています。

学校段階区分は、公立学校では3歳から18歳までを対象として、幼稚園・小学校幼稚部(3〜4歳)、小学校(初等教育・5〜11歳)、中学校(中等教育・12〜18歳)の段階に分けられています。また、中等学校はさらに義務教育段階の5年と義務教育後の2年に分けられ、後の2年はシックス・フォーム(日本の高等学校にあたる)と呼ばれ、大学進学を希望する子どもが進みます。

日本では小学校と中学校のどちらにおいても一学年ごとに学習科目が定められ、授業が行われていますが、イギリスでは11年間で4段階(キーステージ1〜4)に分け、キーステージごとに複数の学年が混ざって授業が行われます。

また学習到達度の評価についてもこのキーステージごとに行われます。各ステージ修了時にナショナルカリキュラムテストと呼ばれる全国規模のテストがあり、中等学校での義務教育段階修了時(5年)には修

了資格試験があります。そして、シックス・フォームで大学進学を希望する者は1年ごとに日本のセンター試験にあたる試験を受け、この成績が大学入学の可否に大きく影響します。

日本では私立学校も公教育に含まれているため、公立と私立の別なくこのような学校制度を採用していますが、イギリスの私立学校は、登録のために国の認可や監査を受けますが、教育課程については国が定める全国共通カリキュラムに準拠する必要はなく、また教員に正教員資格の取得が義務付けられていません。このようにかなり自由な裁量を持つているかわりに、国からの財政的な補助・援助等がありません。

セツトフォードグラマースクールはこのような私立学校の一つです。1114年に現在の体制となり昨年900周年を迎えた、大変歴史のある学校です。セツトフォードグラマースクールでは3歳半から18歳までの子どもを受け入れており、ジュニアスクール(初等科)、シニアス

クール(中等科)、シックス・フォーム(高等科)をあわせて300名ほどが在籍しています。一日の学校生活は日本とそれほど違いがありませんが、この学校では家庭での学習についても積極的に指導しており、7〜8歳の生徒は1時間、9歳は1時間半、10〜13歳は最低2時間学習するように宿題を出しています。この学校に限らず、海外の学校では宿題が多く出されます。勉強の話ばかりになってしまいましたが、サッカーやラグビー、バレーボールなどのスポーツも盛んに行われています。



美術の授業風景 (複数の学年がテーマごとにグループで活動 2014 撮影)



# 月刊 オブシディアン通信



No.059

オブシディアンとは英語で黒耀石という意味。黒耀石の代表的な原産地は、我が町の和田峠・星箕峠をはじめとした霧ヶ峰・八ヶ岳一帯に密集しています。



## セットフォード

ぶらり旅 ⑧

### 『イギリスの学校生活』

ーグリフィンドール VS

スリザリニー

前号のオブシディアン通信では、イギリスの教育制度についてご紹介しました。今月号では実際の学校生活について、学校間交流の候補校であるセットフォードグラマースクールのジュニアスクール（初等科）の例を挙げながらお話ししていきたいと思えます。

イギリスの学校生活で、日本と大きく違っている点は「ハウス制」というものです。「ハウス」とは「学校の寮」という意味です。みなさんの中には「ハリーポッター」のシリーズを本で読んだり映画で見たりした人が大勢いると思います。ハリーたちはホグワーツ魔法魔術学校に入学するとすぐに「組分け帽子」でどの寮に入るのかを決められています。ハリーと親友のロン、ハーマイ

オニーたちはグリフィンドール、ライバルのマルフォイはスリザリニーといったように全ての生徒が4つの寮のどれかに分けられていきます。そして、同じ寮に入ったら、まるで家族のように、上級生は下級生の面倒を見ます。勉強やスポーツなど、いろいろな活動でみんなが協力し合っている、時には他の寮と競い合ったりしていました。現代では、ハリーたちのように全員が寮で生活をするような学校は多くありません。でも、「全校生徒をいくつかの組に分ける」という形は残っています。これを「ハウス制」と呼んでいます。この制度で行われていることは、まさにハリーポッターの学校生活そのもの！（ただし、「組分け帽子」はありません。）

セットフォードグラマースクールにも4つのハウスがあります。昨年の6月に訪問した時には、校舎の入り口にそれぞれのハウスの活動を紹介するコーナーがあり、男の子2名、女の子2名の写真が、各ハウスのリーダーである「キャプテン」として掲示されていました。4つのハウ

スにはそれぞれに、青、緑、赤、黄、とチームの色が決められています。ハウスの上級生たちは下級生たちのお兄さんやお姉さんのような存在で、下級生の面倒を見たり、学校のルールを教えてあげたりします。下級生たちは、そんな上級生の姿を見て、いつか自分もあんなふうになりたいなとあこがれるのでしょうか。このようにして、年齢を超えた縦のつながりが生まれるのがハウス制の良いところです。

同じコーナーには、賞状やトロフィーなども展示されていました。勉強やスポーツ、課外活動などで活躍し、なにか賞を取ったりしたら、その人が入っているハウスに得点が入る仕組みもハリーポッターと同じです。ホールには、ハウスごとの得点が見えるように、得点ボードが掲示してあります。このボードを見ながら、みんな、「自分のハウスの点数が高いぞー」とか、「ちよっと得点がないな。〇〇ハウスに負けないううにがんばらなくちゃー」、また、「この間、私がもらった賞の得点が入っ



生徒の活躍ぶりを紹介するコーナー



ハウスごとの得点を示すボード

たーやったー!!」とか考えているんじゃないかな、きつと。

(文責 笹澤真弓)



# 月刊 オブシディアン通信



No.060

オブシディアンとは英語で黒耀石という意味。黒耀石の代表的な原産地は、我が町の和田峠・星箕峠をはじめとした霧ヶ峰・八ヶ岳一帯に密集しています。



## セットフオード

### ぶらり旅 ⑨

#### 『イギリスの学校生活』

— Let's go to the dining hall! —

(食堂へ、レッツゴー)ー

みなさんは学校生活の中で何の時間が一番好きですか？好きな科目の授業やお友達と遊べる休み時間などいろいろあると思いますが、「給食の時間」という人も多いのではないのでしょうか。今月号では、セットフオードグラマースクールの例を見ながら、イギリスの「学校給食」について紹介しましょう。

長和町の学校は小・中学校ともに、学校の中で給食を作る「自校給食」を実施しています。セットフオードグラマースクールでも同じように、学校の中に調理室があつて、毎日、調理したての給食を食べさせています。

また、グラマースクールにも広い食堂があつて、生徒たちはそこで給食を食べています。入り口のドアの

周りの壁には、生徒が描いた給食の絵が貼つてあります。一週間分のメニューも表示されていますが、イギリスでは、メインの献立が2種類用意してあつて、どちらかを選ぶようになっていいる学校が多いようです。では、ある日の献立をちょっとのぞいてみましょう。メインの料理は「牛肉のラザニアとガーリックパン」または、「Road in the Hole (穴の中のヒキガエル)」とあります。「えっ、カエルの料理?」と思つたみなさん、安心してください。これはカエル料理ではなくて、ソーセージを使ったイギリスの伝統料理の名前です。(変わった名前ですが、もちろん、ソーセージにもカエルの肉は使っていません。)

伝統的な料理を給食の献立にする、ということには日本でもいろいろな学校で行われています。長和町の給食でも、「ニジマスのからあげ」や野沢菜を使った料理など長野県独特のもの、節分のお豆やひな祭りのちらし寿司など季節の行事にちなんだ献立もあります。

給食も学校での勉強の一つ。自分の住んでいる地域や国の伝統的な食事がどんなものか、食べて知ることも大切なことです。

さて、そのほかのメニューも見てみましょう。「チーズとポテトのペストリー(パン)」、「ジャムタルトとカスタード」、「くし形に切つたジャガイモのオーブン焼き、クリームドポテト(マッシュポテト)、野菜いろいろ」そして、こうしたメニュー以外にも、サンドイッチ、フランスパン、ラップ(クレープのようなうすいパン生地)で肉やハム、野菜をまいたもの、パスタ、サラダ、果物を選んで食べられるようになっていきます。

また、イギリスでは毎日、デザートがついてくるみたいです。月曜日には「アイスクリームをそえたキャロットケーキ」、金曜日は「チョコレートブラウニーのアイスクリーム添え」。うらやましいけれど、太ってしまいそうですね。

ほとんどの学校給食で、ベジタリアン(肉や魚を食べない人)用の、野菜だけを使ったメイン料理を用



グラマースクールの献立

意しています。また、宗教の決まりで、食べて良いものに制限がある生徒のための料理を用意している学校も多くあります。イギリスには世界中のいろいろな国や地域からやつてきた、さまざまな民族の人たち、違った宗教を信じる人たちが暮らしています。そういった人たちの子どもたちが同じ学校で勉強し、一緒に給食を食べています。そして、食事を通してお互いの文化や習慣の違いを知り、それらを尊重することを学んでいくのです。

(文責 笹澤真戸)



# 月刊 オブシディアン通信



No.061

オブシディアンとは英語で黒耀石という意味。黒耀石の代表的な原産地は、我が町の和田峠・星葉峠をはじめとした霧ヶ峰・八ヶ岳一帯に密集しています。



## セットフオード

### ぶらり旅 ⑩

『イギリスの学校生活』

— Let's go to the dining hall! —

（食堂へ、レッツゴー）その2—

先月号では、セットフオードにあるグラマースクールの給食について紹介しました。学校給食の制度や郷土料理を取り入れた献立は、長和町の学校と共通していました。一方、イギリスでは、同じ学校に通う様々な国の子どもが「食」を通じて互いの文化を理解し、尊重するという目的で献立が考えられている点が特徴的でした。

他に日本とイギリスの給食で違うところは何でしょうか？ 今回も、なじみの深い学校給食の様子を比べてみたいと思います。

長和町の小学校では、給食の時間になると白い給食着と帽子をかぶった当番さんが、給食の配膳をします。イギリスにはこの「給食当

番」がありません。

スキー場のカフェテリアみたいに、生徒はお盆にお皿をのせて、調理員の方がそのお皿に料理をのせてくれます。サラダバーでサラダを盛るのは自分でやりますが、日本のように給食当番が手分けをしてクラスのみんなの給食を盛りつけるということはありません。

もう一つ、イギリスでは、日本のようにたくさん種類の食器を使いません。日本では、ご飯の食器、お汁のおわん、おかず用の食器、めんを食べるどんぶりなど、毎日3種類くらいは食器を使います。これに対して、イギリスでは、大きなお皿にほとんど全部の料理を盛りつけるのが普通です。

それから、「いただきます」と「ごちそうさま」のあいさつもイギリスにはありません。海外では、食事にときに宗教的なあいさつがよくみられます。また、同じアジアの韓国などでは、「いただきます」や「ごちそうさま」に共通する言葉を使うことがあります。日常の中で

たとえ一人でも食事の時にこの言葉を使うというのは、日本独特の習慣のようです。

栄養管理の点ではどうでしょうか。イギリスの学校給食では、10年ほど前から、より健康的な食べ物を生徒たちに提供する取り組みを力を入れるようになりました。具体的には、脂肪を取り過ぎないように揚げ物を減らしたり、野菜や果物を増やしたりすることが推奨されています。

学校給食は、献立を通して生徒自身も自分の体にとって良い食べ物は何かを考え、より栄養バランスのとれた食事をする習慣を学ぶという教育の場でもあります。この点は、給食制度を持つ両国の共通した考えではないでしょうか。

日本の給食も、栄養士の先生がカロリーや塩分、肉や魚や野菜などの栄養バランスをしっかりと考え、調理員のみなさんがおいしく調理してくれています。「いただきます」そして、「ごちそうさま」。好き嫌いをせずに、お友達や先生と一

緒に、おいしく、楽しく、感謝の気持ちで給食をいただきましょう！

（文責：笹澤 真弓）



子ども達が描いた給食のイラスト



食べ物と栄養バランスのイラスト



# 月刊 オブジディアン通信



No.062

オブジディアンとは英語で黒耀石という意味。  
黒耀石の代表的な原産地は、我が町の和田峠・  
星糞峠をはじめとした霧ヶ峰・八ヶ岳一帯に  
密集しています。



## セツトフォード

### ぶらり旅 ⑪

#### 『イギリス地方自治の仕組み』

つい先頃、イギリス王室のウイリアム王子とキャサリン妃に第2子が誕生し、日本でも大きな話題となりました。日本とイギリスはどちらも小さな島国で、それぞれ皇室と王室があり、政治家のトップは「首相」であるなど共通点も多いのですが、政治の仕組みをみると、日本とは大きく異なっています。今月号は、イギリスの地方自治の仕組みについて見ていきます。

私たちは、「イギリス」とひとくちに言っていますが、正式な国名は「グレートブリテン及び北アイルランド連合王国 (The United Kingdom of Great Britain and Northern Ireland)」と言います。グレートブリテン島の北からスコットランド、ウェールズ、イングランドと、お隣のアイルランド島北部の北

アイルランドの4つの地域が、国王を中心としてまとまった「連合国家」です。これらの地域は民族的にも文化的にも、そして法律さえも異なっています。外交(外国とのおつきあい)では「連合国家」として行動し、国内では、地方自治でそれぞれの特色を活かした政治を行っています。最も人口が多く、国の中心となっている地域が「イングランド」ですが、長和町が国際交流を進めようとしているセツトフォードもこのイングランド地域にあります。ここでは、イングランド地域の地方自治の特徴を見ていくことにしましょう。

イギリスの地方自治の仕組みは非常に複雑です。日本では「県」と「市・町・村」の担う仕事の内容が分担されており、日本全国どこへ行ってもそれほど変わりません。ところがイギリスでは、「県」にあたる機関しかない地域、「県」の機関と「市」の機関がある地域などが複雑に点在し、さらに、それぞれの機関が担っている住民サービスも

一様ではありません。そして、おそらく最も大きな違いは、どのような仕事(住民サービス)を行うかを決定し、実行するのが地方議会であるという点でしょう。

地方議会が仕事の内容を決めるときには、徹底して「住民の意向」を反映させる形を取ります。議会を「オープン」にしているところも多く、自由に傍聴できるだけでなく、議員以外でも発言ができ、採決にも参加できるといふところもあります。議会で下された決定に対して、その議会の元に執行部が設けられます。そして、執行部は議会の指揮と監督を受けながら、公務員を抱えて仕事を始めるという仕組みになっています。

イギリスでは、ホームステイをはじめとする交流事業実施に向けて「ブレックランド・長和交流委員会」が結成されました。先の5月にセツトフォードで開かれた会合には、セツトフォード町長を含む町議会、町議会書記官、さらにブレックランド地方議会とノーフォーク州議会

代表者が参加されています。「ブレックランド」はこちらで言えば「上小広域」、「ノーフォーク州」が「県」に当たると考えれば良いと思います。イギリスの議会は「意思決定&執行機関」ですから、議会代表が参加されたということは、この交流事業が実現に向けて大きな一歩を踏み出したと言えるでしょう。

6月24日から29日にかけて、長和町議会議員団がイギリスを訪れ、「交流委員会」と会合をします。その報告は、8月号で掲載予定です。  
(文責:笹澤 真戸)



長和町との国際交流委員会が発足